

## 職員による自己評価

## A 環境面

- ・利用人数や療育の内容によっては少々狭く感じることもある。
- ・必要な人員は確保できているが、配置等の工夫が必要。
- ・絵カード・写真等を使い分かりやすく表示している。

## B 児童への支援内容

- ・聞き取り票、面談・モニタリングを行い、支援計画を作成している。
- ・毎日療育前にミーティングを行い、療育後には振り返りを行っている。
- ・毎日個々のケース記録に記載している。
- ・週替わりのプログラムを考え実行し、イベント等を行っている。

## C 関係機の連携

- ・専門家の監修・研修を受けている。
- ・児童館、学童等との交流は無し。
- ・ケース会議に出席している。
- ・送迎時に学校、保育園、学童職員から様子を聞いている。

## D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・送迎時、連絡帳、面談等で様子を伝えている。
- ・保護者より相談があった際は、職員で協議し、対応している。

## E 非常対応

- ・地震、土砂災害時のフローチャートを配布している。
- ・アレルギー等に関しては、保護者から聞き取り、記録に残し、管理している。
- ・年 2 回の避難訓練の実施。
- ・緊急搬送に備え健康調査票を記入してもらいファイリング。

## 保護者による評価

## A 環境面

- ・狭い。(若干名)
- ・職員の出入りが激しく、分からない。
- ・活動をしている様子を見る機会がなく分からない。

## B 児童への支援内容

- ・他との交流は希望しない。(複数意見)
- ・他との交流の機会を作って欲しい。(若干名)
- ・児童発達支援ガイドラインの内容が分からない為、判断できない。
- ・どちらともいえない。(若干名)

## C 事業所からの情報発信

- ・保護者会の機会があってもいい。(若干名)
- ・保護者会は負担になる為、無い方がいい。(複数意見)
- ・要望は聞いてもらっている。
- ・苦情は特になし。
- ・活動報告はきちんとしてくれる。保護者へのアドバイスもらえると嬉しい。
- ・送迎時 親身になってお話し頂けるので嬉しい。

## D 非常対応

- ・訓練されているかわからない。
- ・防犯についてあまり聞く機会がない

## 事業所内での分析

### 【共通点】

- ・活動場が狭い
- ・保護者への活動報告をしっかりと行っている。

### 【相違点】

- ・避難訓練を実施しているが、その事が保護者へ分かりやすく伝わっていない。
- ・保護者の間で、保護者会の有無の意見が分かれている。
- ・保護者の間で、事業所外との交流の有無について意見が分かれている。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・利用者の様子を保護者にしっかりと伝えることができている。
- ・毎日のミーティング、振り返りをしっかりと行えている。
- ・専門家の監修・研修を受けている。

### 事業所の改善点

- ・避難訓練の実施等事前の周知・事後の報告を徹底していく。
- ・見学ウィークの様に保護者が集まれる機会を増やす。
- ・事業所外との交流について保護者間の意見のすり合わせを行っていく。

## 事業所の改善への取り組み

- ・避難場所や防災に関するお便りやお知らせの再配布を行う。それに伴い、避難訓練の実施、避難場所の周知徹底に努める。
- ・見学ウィークの様に保護者が集まれる機会を更に増やしていく。
- ・隣接する高齢者の施設と相談し、外部との交流機会促進に努める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者同士で意見が分かれている為、すり合わせを行っていくことが今後の課題である。
- ・避難訓練や防犯についてなど、積極的に情報発信に努めていきたい。また実施後は送迎時等を利用し、報告の徹底を心がけていきたい。

事業所名 のびの木港南

担当者 野本 静香